

令和5年度 延岡しろやま支援学校 校内研究のまとめ

部門	聴覚障がい教育部門	学部	幼稚部
研究テーマ	幼稚部における「自分ノート」の内容検討・作成		
研究の内容と方法	<p>聴覚部門では、幼児児童生徒にとって必要なセルフアドボカシーの力を高めるため、「自分ノート」を作成している。子供自身が自分にとって必要な支援を理解し、関わる支援者等に伝えるツールであるが、今年度は学部ごとに「自分ノート」を作成していった。</p> <p>幼稚部では、発達段階をふまえながら、記入者や使用意図、発信先を整理し、書式を作成していった。作成した書式に、担任が実際に記入する→幼稚部職員で検討するということを繰り返しながら、記載内容について協議し、整理していくという手順で作成した。</p>		
研究の成果	<p>作成した「ととろ幼稚部版自分ノート」は別紙のとおりである。</p> <p>以下共通理解事項である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼稚部段階では、記入者は保護者とする。ただ、担任と懇談等で話し合いながら内容を記入していく。できれば1学期中の懇談等を活用し、幼児の実態をお互いに確認しながら作成する。</li> <li>○ 記入例を添付し、記入内容をわかりやすく提示する。</li> <li>○ 「きこえ」に関する部分が、聴覚的な知識がない方にもわかりやすい記述の仕方ができるとよい。</li> <li>○ 自身で発信できない幼児が、初めて出会う人と関わる際に、混乱しないようにという視点で作成した。実際に知りたい情報、知っていてほしい情報は何かを、検討しながら項目としてあげていった。</li> <li>○ 年齢、学部があがれば、自分で記入・作成・発信していくものになる。そのスタートとしての「幼稚部版」である。よって、小学部、中学部とのつながりを意識した内容であるとよい。</li> </ul> <p>別添資料1：記入例 別添資料2：幼稚部版自分ノート</p>		
今後に向けて (課題)	<p>今年度分について、実際に担任が担当幼児のことを記入してみた。その結果、個に応じた書式になっており、幼児の実態によっては、記入しにくい部分が出てくる可能性を感じた。様々な幼児に対応できるよう、年々ブラッシュアップし、より使いやすい、わかりやすい、書きやすいものになるとよい。</p> <p>また、小学部、中学部とのつながりについても検証していきたい。</p>		